

報道関係者様各位

平成 25 年 10 月 1 日

ネット選挙の効果をフィールド実験によって検出 ～ツイッターを用いた選挙運動の因果的効果を初めて実証～

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所

国立情報学研究所(所長:喜連川 優、以下 NII)の小林 哲郎 准教授は、2013 年参議院議員選挙においてランダム化比較実験^{*1}を行い、ツイッターを用いた選挙運動が投票と政治的態度に及ぼす効果を実証し、ワーキングペーパーとして公開しました。本研究は、厳密な無作為化を伴う実験によってネット選挙の因果的効果を初めて明らかにしました。

■ 発表概要

本研究は、橋下徹大阪市長のツイートを投票日前の約 1 か月間フォローすることの効果を実験によって検討しました。その結果、ツイッターで橋下氏をフォローすることは、橋下氏や日本維新の会に対する好意度にプラスの効果が見られましたが、投票や争点態度、争点知識に対しては効果が見られませんでした。したがって、ツイッターを用いた選挙キャンペーンでは、政策に関するコミュニケーションに対して効果はありませんが、タイムライン上で政治家や政党からのメッセージに繰り返し接触することによって好意度が高まる可能性があるといえます。大量に収集されたツイートの内容分析や選挙結果との相関関係からネット選挙の因果的効果を明らかにすることはできませんが、本研究では厳密な無作為化を伴うフィールド実験によってこの効果を初めて明らかにしました。新しい形の政治コミュニケーションの効果が明らかにされたことは、公職選挙法に関する議論を進める上で意義が大きいものといえます。

■ 発表内容

本研究では、インターネット調査を用いて橋下徹、安倍晋三、細野豪志の3氏をフォローしていないツイッター利用者を抽出し、実験参加に同意した参加者を処置群と統制群に無作為配置しました。処置群の参加者に対しては橋下徹、安倍晋三、細野豪志の3氏をフォローするように依頼し、統制群の参加者に対しては安倍晋三、細野豪志の2氏をフォローするように依頼しました。処置群と統制群の間で生じるすべての差は、橋下徹氏をフォローしたか否かに帰せられます。

投票日の約 1 か月前からフォローを開始し、投票日の投票締切時間直後に処置後の測定を行いました。その結果、統制群では橋下氏に対する感情温度(0~100点)が実験期間中に3.86ポイント低下したのに対して、処置群では0.19ポイントの低下に留まりました(図1)。一方、日本維新の会に対する感情温度は、統制群では実験期間中に0.49ポイント低下したのに対し、処置群では3.5ポイント上昇しました。橋下氏のツイートへの接触は、橋下氏個人に対するイメージの悪化を防ぐ効果を示す一方で、日本維新の会に対する好意度を上昇させる効果が見られました。しかし、政治的争点に関する態度や知識には効果は見られず、日本維新の会に対する投票が促される効果も見られませんでした。

これらのことは、ツイッターを用いた選挙運動は、政策に関するコミュニケーションではなく、タイムライン上で繰り返し政治家のメッセージに触れることが単純接触効果を生み、政治家や候補者に対して好意的な態度が形成される可能性を示しています。

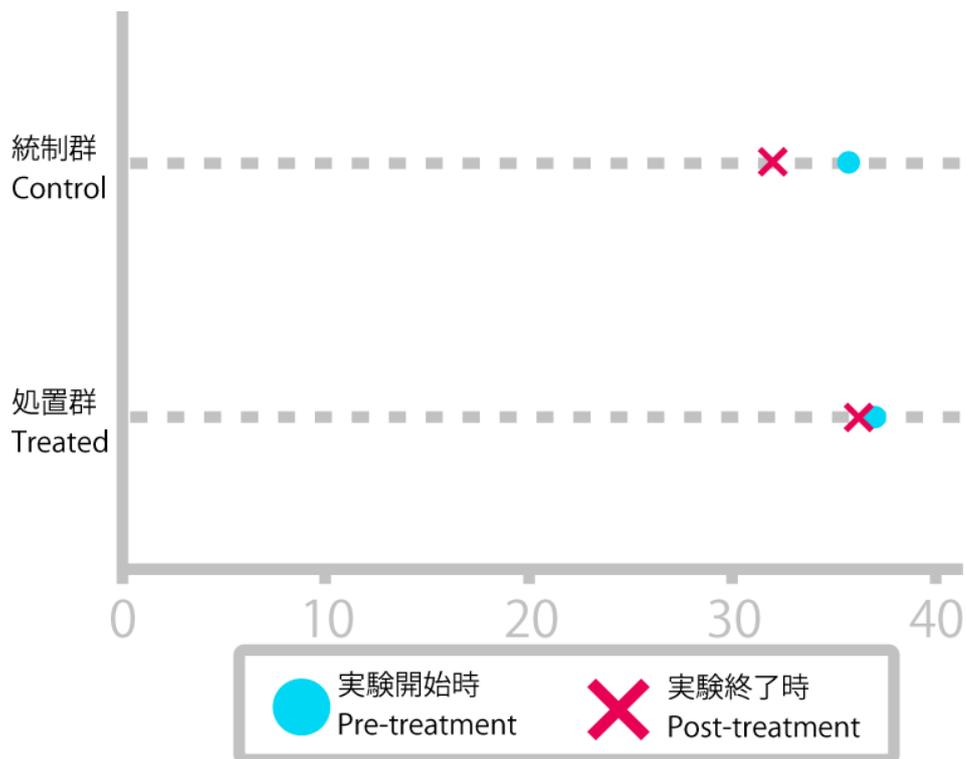


図 1: 橋本大阪市長に対する感情温度の変化

■ 詳細

ワーキングペーパー公開先:

Tweets that Matter: Evidence from a Randomized Field Experiment in Japan

<http://ssrn.com/abstract=2317517>

■ 注釈

*1 ランダム化比較実験

評価の偏り(バイアス)を避け、客観的に効果を比較・評価することを目的とした実験方法。

<<本研究に関する問い合わせ先>>

国立情報学研究所 情報社会相関係 准教授 小林 哲郎

E-mail: k-tetsu@nii.ac.jp

<<報道に関する問い合わせ先>>

国立情報学研究所 総務部企画課 広報チーム(担当:坂内)

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

TEL: 03-4212-2164 E-mail: kouhou@nii.ac.jp